

令和2年度実施 大網白里市住民協働事業 成果報告書

事業名	ひきこもり当事者及び家族支援	
事業主体	実施団体	市（関係課）
	特定非営利活動法人リンク	社会福祉課

事業費	予算額	決算額	市補助金額（交付確定額）
	260,000 円	260,000 円	260,000 円

【 ①目的・課題について 】

次の事項がわかるように、事業概要を記入してください。

○どのような地域課題（行政課題）、住民ニーズに対して、

○いつ ○どこで ○誰を対象に ○どんなことを ○どのような方法で実施したか。

近年の「ひきこもり」といった社会問題に対し、相談及び支援機関が明確ではなく、行政内においても担当課が整備されていない。そのため表面化している困り事に対して各課において対処をしてきている。また、住民からも「地域の中での身近な相談できる場所」を希望されており、現状では、県ひきこもり支援センター1箇所のみとなっている。当該センターにおいても、中核地域生活支援センターはじめ地域の相談機関に紹介をするのみとした活動となっている。

昨年度、この課題に対し、1年目としてひきこもりに関する地域課題としての問題提起と意識の醸成、活動の周知を図った。今年度は昨年の活動を継続しながら、ひきこもり当事者を支える家族が、自ら互いに悩みを打ち明けられることができる場としての組織づくりを目的に、自助グループの土壌形成を図り活動を実施してきた。新型コロナウイルスの影響もあり、当初の計画を修正しながら、感染予防対策を行い可能な限り、顔の見える関係性の構築に配慮した。

具体的な活動としては年1回の市民公開講座、年各2回のひきこもり家族の集い（10月、12月）、心のいずみ（ひきこもり当事者の集い：9月、11月）を行った。

市民公開講座については大網白里市保健文化センターにて、市民、当事者、家族、関係機関（それぞれ大網白里市外も含む）を対象に実施。ひきこもり支援の先駆者からの実践報告として、千葉県ひきこもり地域支援センターの平田智子センター長を招き、千葉県での先駆的な取り組みを知ること、ひきこもりについて正しく理解すること、支援者の心構え等を学ぶことを目的とした。

ひきこもり家族の集いについては、中公民館1階会議室にて、家族を対象とし、昨年度講演をいただいた阿部達明氏（家族会アドバイザー）を講師として招き、ひきこもりの家族を持ち同じ悩みを抱える者同士、悩みを共有できる場を設けた。10・12月に実施し、悩みを共有できる場があること、さらに、家族だけで抱える問題ではなく、地域で支え合

っていく必要があることを確認。「家族会」という社会資源創出の必要性や他地域での「家族会」の成り立ち、取り組みについても講師から話をいただいた。12月は他地域の「当事者の会」に所属する当事者の方の参加もあり、家族として当事者の心の内を知る機会も設けた。

心のいずみ（ひきこもり当事者の集い）については、中央公民館1階会議室にて、当事者を対象とし、同じ悩みを抱えるもの同士がつどい、語らい、ホッとできる時間と空間を共有することを目的に実施した。今年度は家族の集いと同様、阿部達明氏を講師に招き、参加するだけでなく、自身の本音を少しずつ他者へ伝える機会を強化した。

【 ②企画・効果 】

次の事項がわかるように、成果を記入してください。

○事業の内容が具体的で目標達成に向けて適切だったか。

○協働で行うことでどのような効果が得られたか。

○住民の満足度は得られたか。 ○他の団体との連携や協力により効果をあげたか。

○事業を行うことで、市民や地域、他の団体への波及効果（広がり）はあったか。

今年度は昨年の活動を継続しながら、ひきこもり当事者を支える家族が、自ら互いに悩みを打ち明けることができる場としての組織づくりを目的に、自助グループの土壌形成を図り活動を実施してきた。新型コロナウイルスの影響から、各催事に関する参加者減の懸念もあったが、市民公開講座では定員数を超える応募があり、千葉県での先駆的な取り組みを知ること、ひきこもりについて正しく理解すること、支援者の心構え等を学ぶことを目的とし、千葉市地域ひきこもりセンター長よりその内容について講演をいただいた。アンケート結果からも概ね適切であったように思われる。

家族の集いについては、昨年の参加者は新型コロナウイルス影響から参加を見合わせた家族が多く見られたが、家で過ごす機会が増えたことでひきこもりの当事者と向き合う機会が増え、新規の参加者が大幅に増加した。同じ悩みを抱える者同士が集まったことで、その存在に気づき、共感する中で孤立の解消に繋がっている。

自助グループ（「家族会」）の土壌形成についても、講師を招いたワークショップの中で「家族会」という社会資源創出の必要性や他地域での「家族会」の成り立ち、取り組みについて講師よりお話をいただき、家族の方の中でも協力していきたいとの声をいただいている。

心のいずみ（当事者の集い）については、大網白里市生活相談センターリンクサポートの継続相談者の参加が殆どであるが、自宅以外の社会との接点の場として、一步踏み出すきっかけになっている。前回の参加からの変化等確認し合い、次の一步を踏み出す刺激にもなっている。

市と協働で実施できたことで、住民の方々に安心して参加してもらえたことや新型コロナウイルス 感染予防対策を講じ、緊急事態宣言解除後に講師等の調整を行ったことで企画の中止をすることなく実施できた。会場の予約や会場設営等細かなところを含め事業をより円滑に実施することができ、昨年同様の効果が得られた。市社会福祉協議会も引き続

き後援してくださり、周知についてもホームページ上でご協力いただいた。また、今までひきこもりの存在には気づいていたが、相談先が分からなかった関係機関からの相談も繋がるようになって来ている。

市民公開講座、家族の集い、心のいずみ（当事者の集い）開催後のアンケート結果からは、「家族含めひきこもり状態になっていた。同じ悩みを持つ方々と話ができ一歩踏み出すきっかけとなり少しほっとした」「今後も悩みを共有できる場が必要」（当事者家族）、
「親が亡くなり一人になってしまった。心細さの方がまだ強いが、頑張りたい」（当事者）、
「ひきこもりに至る経緯は様々な原因がある。但し、同じような経緯でも同じ対応でうまくいくとは限らず、ひとりひとりと向き合い、寄り添い理解していくことが必要であると学んだ」（関係機関）等、多数の声が聞かれたこともあり、概ね満足は得られたように思われる。

協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<p><input checked="" type="checkbox"/> 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。</p> <p>（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市と協働で実施することで広く周知を図ることもでき、会場の予約や会場設営、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策等細かなところを含め事業をより円滑に実施することができた。 ・住民の方々に安心して参加してもらうことができた。 ・講師の調整が住民及び支援者のニーズにマッチしていたことで、ひきこもりに対する理解が深まり関心が高まった。 ・ひきこもりの現状や実態について共有することができた。 	<p><input checked="" type="checkbox"/> 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。</p> <p>（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・即効性を期待することが難しい事業を、団体と市が協働して取り組んだことに意義があった。

【 ③実行力 】

団体と市の役割分担について、実際に担った役割を記入してください。

団体の役割	市（関係課）の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民公開講座の企画、運営、実施 ・ 家族の集い、心のいずみ（当事者の集い）の企画、運営、実施 ・ 周知（ポスター、チラシの作成と掲示） ・ 個別の相談対応と継続支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区長回覧、広報、民生委員児童委員協議会への周知を実施した。 ・ 会場借用等の協力を行った。

また、その役割分担は適正であったかについて、自己評価（）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<input checked="" type="checkbox"/> 適正であった <input type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった （理由） <ul style="list-style-type: none"> ・ ひきこもりの支援についての民間のノウハウを生かしながら企画、運営、実施については柔軟に行うことができ、周知等については行政の住民や関係各課との幅広いパイプを生かし広く周知を図ることができた。 ・ 市担当者と打ち合わせながら実施できたことで、民間、行政の双方の視点を持ち寄ることができた。 	<input checked="" type="checkbox"/> 適正であった <input type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった （理由） <ul style="list-style-type: none"> ・ 市主催事業と同等の取扱いを行った。

事業スケジュールについて、当初の計画と実際に実施した内容（実績）を詳細に記入してください。

<当所の計画>

月	事業名	内 容	備 考
6	講演会 テーマ：ひきこもり 支援先駆者からの実践報告	・ひきこもり支援の先駆者からの実践報告 講師：千葉市ひきこもり地域支援センター 平田 智子氏 場所：中央公民館 参加対象者：一般市民及び相談支援に関わるもの・保健医療関係者等（約50名）	広報周知 ・市広報掲載（依頼は前年度中）と行政窓口でのご案内。前参加者へのご案内。 ・相談支援機関等への周知。 *年間予定の周知
7	家族の集い（第三回） ※家族がより主体性を持てる機会を持ち、家族会の土壌形成を目的とする。	・同じ悩みを抱える家族が集い、お互いの悩みを共有する。 ・講師を招いたワークショップ形式 ※ひきこもりの家族会の取り組み・活動実践を伺い、相互の力と家族会の有効性について学ぶ。 場所：公民館又は公共施設 参加対象者：ひきこもりの家族を抱える方・支援者等（約10名）	広報周知 ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。前参加者へのご案内。 ・相談支援機関等への周知。
9	当事者の集い（第三回）	・同じ悩みを抱えるもの同士がつどい、語り、ホッとできる時間と空間を共有する。 ・講師を招いた勉強会（精神・発達障害について） 場所：公民館又は公共施設 参加対象者：ひきこもりの当事者・支援者等（約10名）	広報周知 ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。前参加者へのご案内。 ・相談支援機関等への周知。 *年間予定の周知 講師派遣：相談支援機関の精神保健福祉士等
11	家族の集い（第四回） ※家族会の立ち上げについて具体的に検討する機会を持つ。	・社会福祉協議会の職員を講師に迎え、昨年度からの参加者を中心に、家族会立ち上げについて検討する。 場所：大網白里市社会福祉協議会 参加対象者：ひきこもりの家族を抱える	広報周知 ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。前参加者へのご案内。

		方・支援者等（約10名）、	・相談支援機関等への周知。
1	当事者の集い (第四回)	・同じ悩みを抱えるもの同士がつどい、語り、ホッとできる時間と空間を共有する。 ・講師（元ひきこもり者）を招き、体験談等談話する機会を持つ。 場所：公民館又は公共施設 参加対象者：ひきこもりの当事者・支援者等（約10名）	広報周知 ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。前参加者へのご案内。 ・相談支援機関等への周知。

<実績>

月	事業名	内 容	備 考
9/ 30	心のいづみ（第三回）	・同じ悩みを抱えるもの同士がつどい、語り、ホッとできる時間と空間を共有する。 ・継続して行うことで、互いの変化を共有し自己を顧みて一步前進できる機会を作る。 場所：中央公民館 1F <参加者> ・講師：1名 ・ひきこもりの当事者：3名（2名欠席） ・支援者：4名 ・行政職員：2名（オブザーバー） 計 10名	広報周知 ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。前参加者へのご案内。 ・相談支援機関等への周知。 *年間予定の周知 講師派遣：相談支援機関の精神保健福祉士等
10/ 5	家族の集い（第三回）	・同じ悩みを抱える家族が集い、お互いの悩みを共有する。 ・講師を招いたワークショップ形式。 ※家族会の立ち上げ経験についても話をさせて頂いた。 場所：中央公民館 1F <参加者> ・ご家族：6名（3名欠席） ・講師：1名 ・支援者：4名 ・行政職員：2名（オブザーバー） 計 13名	広報周知 ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。前参加者へのご案内。 ・相談支援機関等への周知。

10/ 16	市民公開講座 テーマ:ひきこもり支援先駆者からの実践報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり支援の先駆者からの実践報告 講師：千葉市ひきこもり地域支援センター 平田 智子氏 場所：保健文化センター3F ホール 参加者：計 55 名（10 名欠席） 	<p>広報周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載（依頼は前年度中）と行政窓口でのご案内。前参加者へのご案内。 ・相談支援機関等への周知。 ＊年間予定の周知
11/ 30	心のいずみ（第四回）	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを抱えるもの同士がつどい、語り、ホッとできる時間と空間を共有する。 ・継続して行うことで、互いの変化を共有し自己を顧みて一歩前進できる機会を作る。 場所：公民館又は公共施設 <参加者> ・講師：1 名 ・ひきこもりの当事者：4 名（2 名欠席） ・支援者：8 名（内民生委員 4 名） ・行政職員：2 名（オブザーバー） 計 15 名 	<p>広報周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。前参加者へのご案内。 ・相談支援機関等への周知。 ＊年間予定の周知 <p>講師派遣:相談支援機関の精神保健福祉士等</p>
12/ 7	家族の集い（第四回）	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを抱える家族が集い、お互いの悩みを共有する。 ・講師を招いたワークショップ形式。 ※家族会の立ち上げについての具体的な話をして頂き、協力者を募った。 場所：中央公民館 1F <参加者> ・ご家族：8 名（2 名欠席） ・当事者：1 名 ・講師：1 名 ・支援者：8 名（内民生委員：4 名） ・行政職員：2 名（オブザーバー） 計 20 名 	<p>広報周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。前参加者へのご案内。 ・相談支援機関等への周知。

また、当初の計画と実績をみて、事業スケジュールの組み立ては妥当であったかについて、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体

- 適正であった
- 概ね適正であった
- あまり適正でなかった

(理由)

当初は今年度も市民公開講座を「家族の集い」や「心のいずみ」に先行して実施することで、広く周知を図り、「ひきこもり」という地域課題の問題提起と市民啓発を図り、家族や当事者の掘り起こしを図る予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、スケジュールの変更を余儀なくされた。

「家族の集い」等を先行して行うスケジュールとなったが、昨年度からの周知と家で過ごす時間が増えたことにより、「ひきこもり」が再度クローズアップされた効果もあり、参加者の増加に繋がっている。

今年度は自助グループ(「家族会」)の土壌形成を重点的な目標としており、講師を招き「家族会」という社会資源創出の必要性や他地域での「家族会」の成り立ち、取り組みについて話をいただいた。今年度家族の集いの参加者は継続的な参加となっており、協力していきたいとの声も聞かれ「家族会」の土壌形成に一定の効果があったように思われる。家族の集い、心のいずみを交互に実施したことで、家族の集いに興味を持った当事者が家族の集いに参加し、互いの胸の内を知る機会にも繋がった。一方、心のいずみについては、新規の参加者も増えたが、広報からの参加者はなく、周知の仕方に工夫が必要と感じている。但し、目にしてはいるが参加まで一歩踏み出せない方も多く想定されるため、継続した機会の提供も必要と感じる。

【 ④継続性 】

住民協働事業により「人・もの・情報・スキル」等、団体の活動基盤が強化した点や活性化した点について記入してください。

(例：〇〇を購入したことにより〇〇のスキルが上がり、効率的に活動できた。〇〇活動により団体の認知度が高まり、参加者が増えるとともに会員も増えた。)

また、2年目、3年目の事業については、1年前、2年前と比べて、事業を継続したことで得られた効果も記入してください。

- ・広報誌や区長回覧等広く周知を図った為、住民や市役所各課、相談支援機関等に対し認知度が高まった。
- ・ひきこもりの相談者（家族・当事者）に対し、案内できる社会資源が生まれた。
- ・市民公開講座を実施することで、ひきこもりに対する理解が深まり支援等の関心が高まった。また、参加者から支援活動に協力可能で有る住民を把握することができたことで、今後の活動への参画及び地域での支援活動の協力が可能となる。
- ・家族の集いを実施することで、家族会の必要性を認識しするだけではなく、その立ち上げにも自主的に取り組んでいく意識を高めることができたため、3年目については、組織化を目指すことが可能となった。
- ・心のいずみ（当事者の集い）についても、徐々に参加者も増えつつあり、地域での安定的な社会資源の一つになることで、1年目と比較しても参加者が増加し、潜在的ひきこもりの社会参加のきっかけとなる基礎ができた。

また、その結果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
<input type="checkbox"/> 強化、活性化した
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね強化、活性化した
<input type="checkbox"/> あまり強化、活性化しなかった
(理由)
(理由)
・認知度の高まりから、ひきこもりの相談が増えた。一方、地域の支援機関との連携については相談を受けることがメインになってしまい、協働で支援していく形を形成することでより効果が上がると思われる。
・ひきこもり相談者に対し案内できる社会資源が生まれた。
・広報だけでなく、企画等市担当者と多く打ち合わせを実施できたことで、市との連携が図れ、他事業（中核地域生活支援センター、生活困窮者自立支援事業）においても連携が強化された。

【 ⑤必要性 】

団体と市が協働することで、行政サービスの充実・効率化等につながったか、協働による効果について記入してください。また、協働事業として実施し、良かった点や問題点等について記入してください。

団 体
<p>○行政サービスの充実と効率化等</p> <ul style="list-style-type: none">・「ひきこもり」の専門窓口が地域にない中で、ひきこもりの相談対応ができたことは行政の充実に繋がったと思われる。 <p>○効果及び良かった点</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年度に引き続き、継続して広報による周知等を行ったことで、ひきこもりという地域課題に対し、広く周知を図ることができた。・会場借用での協力をいただけたことで、コロナ予防対策が可能となった。・コロナ禍で「ひきこもり」の問題が埋もれ潜在化してしまうことなく、昨年度に引き続き当事者や家族と顔を見れる関係性を構築できたことや相談できる環境があることを示せたこと。・来年度の「家族会」の形成に向け、その土壌形成と協力者等募ることができた。 <p>○問題点</p> <ul style="list-style-type: none">・支援の手が届かない「ひきこもり」相談者への周知方法や困ってはいるが相談には至らない相談者（当事者・家族）へどのように情報を届けるかが課題として残る。・ひきこもりという限定された課題を市民全体の課題として般化できるような仕組みをつくるためには、制度化、施策化及び予算化が必要と思われる。
市
<p>●良かった点</p> <ul style="list-style-type: none">・協働事業を実施したことで得られた効果は、市として、ひきこもり支援全体のイメージを整理することができたこと。・千葉県の中核地域生活支援センター業務を担う特定非営利活動法人リンクにおけるひきこもり支援を参考にすることができたこと。

また、その協働による効果について、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市 (関係課)
<p>☑ 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) ・地域課題の問題提起と事業の周知、市民啓発に対し、協働事業として継続的に取り組めたことで、事業の認知や信頼度が増し、「家族会」形成の土壌形成についても一定の効果が見られたように思われる。</p>	<p>☑ 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) ・即効性を期待することが難しい事業を、団体と市が協働して取り組んだことに意義があった。</p>